

# 北海之光

6月号 北海道教区報

ハレルヤ 新しい歌を  
主に向かって歌え  
詩編149編1節

発行所 北海の光社  
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12  
日本聖公会北海道教区事務所  
電話 011-717-8181  
FAX 011-736-8377  
E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp  
http://www.nssk-hokkaido.jp  
発行人 笹森田鶴

## 「祈ること」

聖マーガレット教会(在住) 勤務  
札幌キリスト教会協働  
聖職候補生 エリサベト 三浦 千晴

私は、教会でまたその他の場所でも、周りの人々が「主の祈り」を唱えているその「声」を聴くことで、日々養われています。その「声」は、時にたどたどしい「声」であり、また以前使われていた「主の祈り」が混ざっていたりすることもあります。頭を振りながら節をつけて元気に唱える子どもたちの大きな「声」であったり、声を詰まらせて祈り続けられなくなったりする「声」も時にあります。その祈りの「声」には、お一人お一人の人生までもが反映されているかのようです。ですからその「声」を聴きながら、私は密かにその方々のことを思い、祈っています。

ある場所で祈っておられたイエスさまは、弟子の一人の「私たちにも祈りを教えてください。私達にも」という願いに応え、「祈る時にはこう言いなさい。」と教えてくれました。また祈る時には、奥まった自分の部屋に入って戸を閉め、隠れたところにおられる神様に祈るようにと諭されました。その「祈り」を私たちは、今も受け継いでいるのです。「祈り」は、その場にどんな蓄積されていくものであることを、先日笹森主教より教えていただきました。

数年前の夏、聖公会神学院の夏期実習で、旭川聖マルコ教会にお世話になり、稚内聖公会にも連れて行っていただいたことがありました。稚内聖公会で礼拝をお捧げしてから、市内にあった「イエズスの小さい姉妹の友愛会」の二人のシスターが居住するお宅を訪ねた時のこと。三角屋根のその家は、ごく普通の

民家で、二階の小さな一室がお御堂となっていました。小さなイエスさまの聖像があるだけのその部屋の空気が、明らかに他の部屋とは違うことを、その部屋に入っただけで感じました。毎日二人のシスターが、日に何度かお祈りを捧げていたその「祈り」が、そこに蓄積されていたのだろうと考えます。残念ながらその「イエズスの小さい姉妹の友愛会」は、二〇一九年五月一三日に閉所となりました。あの家は、その後どうなったのか。そしてあの時の空気が、いったいどこに吸収されたのか、とても興味深く考えています。

六月五日は、聖霊降臨日でした。聖霊降臨日とは、弟子たちに聖霊が降り、彼らが神様の言葉とみ業を証しする者へと変えられた記念日、ゆえに教会の誕生日とも言われていることを知っています。今までは、聖霊が降り、弟子たちが宣教を始めたことばかりに関心を持っていました。でも「祈ること」に視点をおいてその聖書箇所を読み直し

てみると、使徒言行録にある「二回が一つになって集まっている」という記述から、弟子たちはきつと一つになって「祈ること」をしていたのではないかと考えるようになりました。弟子たちが一同に集まり祈っていたところに聖霊が降り、一人一人にとどまると、彼らは聖霊に満たされ、霊が語らせるままに他の国の言葉で話し出した。この「祈り」から教会が始まり、その「祈り」が積み重ねられた場が教会となった、と言えるのではないのでしょうか。

私は、この困難を多く抱える世の中では「祈ること」しかできない」というのではなく、困難の只中で「祈ることができる」恵みを神様からいただいていることを今、深く感謝したいと思っています。「祈ること」ができて、本当に良かった。人生の終わりに、自ら祈りを唱えられなくなっても、側にいる方々が唱える「祈り」を聴き、最後まで、神様に感謝、賛美をお捧げしたいと願っています。



—心の窓をひらく—

## 福音と私(二五九)

—今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか—

帯広聖公会信徒

マリヤ 松本 智子

私の好きな聖句

「自分の宝は、天にたくわえなさい。あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。」

(マタイ六章二〇節・二二節)

セピア色になっても大切にしている聖書を開き、五〇年の月日を想い返す機会をいただきました。

今日までお守りくださった主への感謝と、私とかかわってくださった方々への感謝を忘れることは出来ません。



言葉は、すぐには理解出来なかった記憶があります。

家には大きな仏壇があり、お寺との繋がりの深い家に育った私には無理もない事でした。私がキリストに召かれて行った教会は、今の帯広キリスト福音教会です。

その教会には他の高校の同級生達も来ていて、男の子女の子五、六人だったでしょうが、異国の言葉が書かれています。余りにも長い時が流れていることに改めて驚きを感じています。

高校生の多感な時代、目に見える世界だけではなく、目に見えない心の世界もあるのでは?と悩み、学校の勉強は二の次とばかりに多くの本を読みました。答えはみつかりませんでした。

当時、土曜日は午前中に授業がありました。放課後今日日は映画館に寄って洋画を観て帰ろうと街中を歩いている時、ニュージラランドからの宣教師が配るトラクトを受け取りました。そこには「キリストの福音集に参加しませんか。」と書かれてあり、何故だか心を動かされ、翌日の日曜日招かれるまま集会に参加しました。そこで語られた

人の子どもに恵まれ、教会に子ども達と一緒にける幸せをかみしめていました。

元日礼拝、イースター、春秋の墓地礼拝、郊外で、時には我が家の庭での野外礼拝、教会の庭でのキャンプと焼肉、クリスマスイブキャンドル礼拝、その後の祝会での降誕劇など、楽しい思い出が沢山あります。

今は大人になった子ども達と思ひ出話や信仰の話が出来ることは、とても嬉しいことです。子育ての時代も、また自分の思いと違う現実にある時も、教会は慰めと癒しを与えてくれました。

「フットプリンツ(あしあと)」という詩を読んだことがありますが。アメリカ人女性、マーガレット・F・パワーズ姉が自身の体験を詩にした作品です。詩の一部ですが、「主はささやかれた。わたしの大切な子よ。わたしはあなたを愛している。あなたは決して捨てたりはしない。ましてや苦しみや試みの時に。足跡がひとつだったのはわたしがあなたを背負っていたから

だ。」この詩に出会った時は、共に歩いていくのださるはずの主を見失った時だったのでしよう。「いない、私は一人で頑張っているのに!」と困惑と不安の祈りをしていて出会った、今も大好きな詩です。子ども達が成長し各々の道を歩み始め、私は再び自分と向き合う時間が持てるようになりました。一〇代の頃に探し求めていた答えが、五〇年後にみつげられたと感じているのです。重さも深さも広さもある答えです。

世を去った方々、今も元気でいてくれる母、家族ばかりではなく、たくさんの方々の出合いのなかで思うことは、神様は人を遣わして寄り添ってくださる。出会った皆さんの内にイエス様がいる。出合いを通してイエス様は、私に多くの言葉を語ってくれていたのだと思えるのです。

いつまでたってもらしくないクリスチャンですが、教会に繋がり、人に寄り添いながら生きていこうと思えます。

主に感謝

常置委員会報告

第七回 五月一六日

協議事項

一、GFS本部主教、GFSナショナルチャプレン選任に関する件

・本部主教に笹森田鶴主教



主教室から

初めての「主教室から」です。改めてどうぞよろしくお願いたします。

北海道教区へ四月一日に移籍してから二ヶ月半、四月二三日の主教按手から一ヶ月半程が経過しました。四月からのことを振り返りますと、なんだかずいぶん長い時間がすでに経過しているような不思議な感覚があります。恐らくあまりに多くの重要な出来事が次々とあったからだと思います。単身での札幌への移動から始まり、北海道教区での聖週の日々、イースターの祝いと喜び、按手式前のリトリート、祈りと聖霊に導かれての主教按手式、初の主教巡回と堅信式、そしてコロナ感染のため自宅療養もありまし

ナショナルチャプレンに木村夕子司祭が選任される事を承認した。

二、主教出張に関する件

・日本聖公会婦人会総会(六月一五〜一六日・大阪)、NPO生野センター三〇周年記念礼拝(一〇月一〇日・大

た。教区教役者宿泊研修会、教区礼拝、教区の日、道央分区分会、牧師会の家族会、主教巡回再開など。

向く場所も出会う方々もすべてが新しいことばかりです。そしてそれらの出来事や皆さんからいただく言葉や思いを通して、教区主教として大切なことをひとつずつ経験させていただいています。中でも教役者の方々の祈りの時や対話は、わたしにとっての直接的で大きな励みであり、神の家族の交わりの核となる場所です。

だからこそ、パウロ三澤康二司祭さまを神様のみ許にお送りしなければならぬという出来事は、衝撃的な痛みと悲しみ、そしてキリストを真中にしたわたしたちの交わりの奥深さを感じる時となりました。直接じっくりとこの世において出会うことがなかったに

阪)の主教出張について承認した。

三、第一六回奏楽クリニクに対する補助に関する件

・六月一〇〜一一日に開催されるクリニクの開催を補助する事とした。

四、「グレースの会」会長就

も関わらず、これまで先輩聖職をお送りする時とは違うレベルの痛みと悲しみがそこには確かにありました。まるで三澤先生が、同僚の教役者との密接度を、その痛みを通して教え導いてくださったようなようでした。ありがたいことでした。きつと小貴雅夫司祭さまと同様、三澤康二司祭さまは今も北海道教区のために祈りお支えくださっていることでしょう。

わたしたちは亡くなられた方々とも一緒に、北海道教区という信仰共同体としての長い旅を、何があっても続けていきます。この旅への神さまの導きを心から祈り求めます。皆さまもどうぞ共に祈ってくださいませように。

主教 マアグレス 笹森 田鶴

任に関する件

・笹森主教の「グレースの会」会長就任を承認した。

今年ランバス会議が

開催されます。

七月二六日から八月八日まで、カンタベリー大主教によって招集される第一五回ランバス会議が一年振りにイギリスのケント大学において開催されます。

ランバス会議は、一八六七年以来約一〇年ごとに開催されているアングリカン・コミュニティの主教たちによる会議で、今回のテーマは、「神の世界のための神の教会―共に歩み、耳を傾け、証しする」です。

会期中、毎日主教たちは祈り、聖書研究をし、またさまざまなテーマ(宣教と伝道、セーフチャーチ、交わり、和解、環境と持続可能な開発、キリスト教の統一、他宗教との関係、弟子訓練、科学技術と教会など)について話し合い、世界中から集まった宣教の経験を共有します。すでに昨年七月から会議のための準備として、事前のネット会議も重ねられています。二一世紀の世界に向けて聖公会が希望と福音を語っていくため、このランバス会議のためにどうぞお祈りください。

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

七月二三日(水)

午前一〇時三〇分

於 主教座聖堂

司祭 林 稔

伝道師 小川 淳 一

一九七八年七月一日

司祭 渡 辺 政 直

一九二二年七月三日

司祭 今 井 四郎太

一九四六年七月一日

司祭 野 村 義 雄

一九六二年七月一日

伝道師 黒 田 富 雄

一九四四年七月一日

司祭 木 村 定 三

一九四五年七月一日

伝道師 ジェーン

一九六三年七月二四日

A・ステューブリー

一九六三年七月二四日



宣教協議会って

何ですか？

一九九五年

宣教協議会について

今回と次回の「ぶどうの枝だより」(教区報版)では、過去に開催された宣教協議会について振り返ります。今までのような宣教協議会が開催されたかを思い返すことで、二〇二三年の宣教協議会へ臨む気持ちを新たにできればと思います。今回は、一九九五年の宣教協議会について取り上げます。

この宣教協議会以前にも、日本聖公会では宣教に関わる協議会が開催されましたが、「伝道協議会」あるいは「宣教協働協議会」という名での開催でした。「宣教協議会」という名での開催は一九九五

年の協議会からです。

そもそも、宣教協議会とは何でしょうか。今までに開催された協議会を概観してみると、次のように言うことができると思います。すなわち、「その時代時代において、協議して方向性を定める必要がある宣教の諸課題について、日本聖公会全体としてなされる協議会」と。教会単位でもなく、また教区単位でもなく、日本聖公会全体としてというところに大きな力点があります。

一九九五年の宣教協議会は、八月二八日～三一日まで、清里清泉寮にて開催されました。主題は「日本聖公会の宣教―歴史への責任と二一世紀への展望」。戦後五〇年の節目にあたり、「歴史、世界、社会、民衆の中で働いて

おられるキリストに生きる教会」が目指されました。参加者は一八四名でした。

塚田理司祭による主題講演「日本の歴史と宣教理解」や、ジョン・ボビー司祭による特別講演「二一世紀への教会の展望―あらゆる場を変革するために―」が行われ、井田泉司祭による聖書研究「『正義を行う』ことへの召し」がありました。また、祈りの集いの中での韓国、フィリピンからの証言や、女性、障がい者、環境問題に関わる発題がありました。

これらの講演や証言、発題を受け、参加者による協議を経て、協議会最終日に「日本聖公会一九九五宣教協議会宣言」が採択されました。そこでは、「日本聖公会が戦争に加担した責任を痛みをもって自らのものとし、敗戦後、すみやかにこの責任を明らかに表明できなかった戦後責任を確認し(…)その罪責を神の前に告白し、被害を与えた隣人の前に謝罪」し「懺悔」す

ること、また「日本聖公会は、差別、抑圧を生み出し支えている社会構造自体を変革するための地の塩、世の光とならなければ」ならないことが表明されました。また、同じく「日本聖公会一九九五宣教協議会共同さんげ」が採択されました。

採択されたこれらの「宣言」、

「共同さんげ」に導かれるかたちで、翌年の一九九六年第四九(定期)総会において、「日本聖公会の戦争責任に関する宣言」が決議されました。この決議に

より、韓国・フィリピンをはじめとしたアジアの諸教会との交わりが深まることとなりました。またこの宣言は、一九九八年ランベス会議で紹介され、多くの国の人々に感銘を与えたようです。

(宣教協議会実行委員  
横浜教区司祭北澤洋)



# 教区礼拝

「新しい旅路の始まり」

道北分区協働

司祭 ヘレン 木村 タ子

五月一四日(土) 午前一〇時三〇分から、札幌キリスト教会において教区礼拝が行われました。パイプオルガンの奏楽、少しばかり控えめに響くマスク越しの賛美の声、バナーを持つ若い人たち、続いて順に入堂する教役者の姿、すべてが三年ぶり。そしてこの群の中には、新主教マリア・グレイス笹森田鶴師が加えられています。「皆さんようこそ。」極めて新鮮に感じる歓迎の言葉に鼓動を感じながら、約二二〇名の会衆と、ネット配信に加わった人々の心は次第に福音の言葉に引き寄せられて行きました。

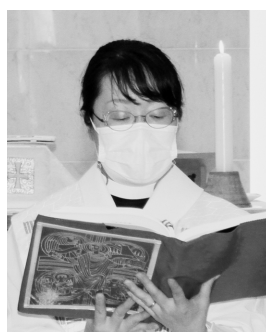
デニング司祭が一四八年前に北海道に上陸した日を記念する教区の日(六月一六日)と、ユダヤ人の神殿奉献記念

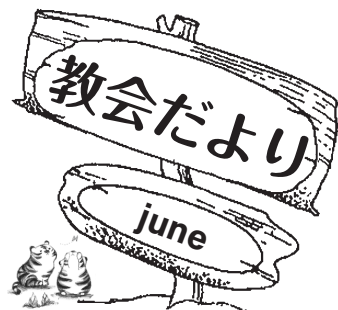
祭の日の出来事との対比で説教が語られました。魂の不安定さに耐えられずに主イエス様に詰め寄って、自分たちが求める通りの返答を迫るユダヤの人々の背景にある勝利宣言を求め、心のありようと、魂が不安定な状態にありながら主イエス様が發する声に聴き続け、その声の方に向かって共に歩み続けて来た教会のありようは対照的です。教会の歴史上、安定していた時代などほぼ無かったと思われるのですが、教会は常に天からの声に聴き、時には大胆に舵を切って来たのです。どこへ行き、誰と出会うのか、一体どうなるのか先が見えない不安定の中で、導かれる、というの、そういうことです。

新主教を迎えた変化の時の中にある北海道教区は、喜びと

同時に不安定さをも経験していますし、信徒それぞれの人生においても魂の不安定は常にあります。この不安定を生きたる秘訣は、「声を聴き分ける事」にあります。不安定に耐えかねた人間の声ではなく、主イエス様の發する声に聴きながら、主イエス様が働きかけてくださる音がする方向を皆で確かめ合いながら歩みを進める、そのような神の羊の群であり続けるようにと励ましをいただきました。北海道教区の一四八年の、まるで奇跡のような歩みに加えられて共にある事を幸せだと語られた言葉から、さらに勇気をいただいたように思います。

新型コロナウイルス感染防止の観点から、聖歌隊の奉仕や昼食のサービス、バザー、各活動からのアピールの時間は設けられませんでした。やがて状況が落ちついてこれらも回復される時がくるのが期待されます。





▽旭川聖マルコ教会

コロナ感染症に罹患する人が二桁になったり三桁になったりの旭川ですが、マルコのメンバーは皆元気です。コロナ禍の中、礼拝は休むことなく守られてきたことに感謝し、聖歌をたくさん歌える日とマルコ食堂が再開される日をお待ちしています。聖書輪読会は諸般の事情で五月は一回でしたが六月からは水曜日に移動して開かれます。広谷先生と永谷先生のお引越しが無事に終わり、新しい歩みが始まります。

保育園はコロナに躊躇せず例年に近い生活を取り戻すべく、芋うえや親子遠足の計画を立て、外遊びやサナギからかえる蝶の観察を楽しんでいます。

▽岩見沢聖十字教会

教区から主教就任式の記念クリアファイルを信徒・園職員にも戴き大喜び。同じく送られた「祈りのしおり」を用いて一・二日間の祈りを開始。

植松誠前主教ご夫妻に、信徒より一言の色紙と、幼稚園の小野佳代子教頭からは、新園舎納入式の際の額入り写真を贈りました。若い時の主様が写っていましたよ。そして、お礼状が送られてきました。

五月一四日、札幌キリスト教会にて教区礼拝。当教会から畠山夫妻が出席。笹森田鶴主様の心温まる説教と聖職者、信徒との交わりに感謝。

▽釧路聖パウロ教会

五月に入っても釧路のコロナ感染者数は高止まりしています。人口比率にして札幌の二千人を超える日もあるほどでした。

そんな中、四月一日付で釧路に戻られた前田博美園長の太陽のような明るい存在感、信徒たちにとって極めて

力強いものがあります。

また、ご主人を看取られた木幡八重子姉が、毎週欠かさず聖餐式に参加されている姿には、信仰心の篤さに心を揺り動かされます。

ただ、哀しいこともありました。五月七日、アイリーン花輪幸衣姉が神のもとに旅立たれ、御葬儀は吉野司祭と前田博美兄、鳴海範子姉がご奉仕。また三澤司祭ご逝去のお知らせもありました。主よ、み恵みを。

復活後第五主日の聖餐式後、三年ぶりにオリーブ会が開催。世界的な運動になった「み国が来ますように」の説教と「祈りのしおり」が配られました。六月三日には、釧路のハリトリス正教会で世界祈禱日礼拝が行われます。

世界中のキリスト教徒が宗派を超えて主に祈る。参加の意味は深いと思われまふ。

▽小樽聖公会

二〇一六年より六年間奉仕された永谷司祭との最後の主日礼拝・聖餐式が五月二十九日(日)に行われました。礼拝後には久しぶりの茶話会をも

ち、楽しいひと時となりました。これまでの働きと交わりに感謝するとともに、六月からの旭川聖マルコ教会でのご奉仕、お働きのうえに豊かな祝福をお祈りします。

二月の雪害で損傷を受けた礼拝堂の修復工事が五月下旬より始まりました。六月二日の主教巡回日には礼拝堂で礼拝ができる見通しです。多くの方のお祈りとお支えに感謝。

▽新冠聖フランシス教会  
わたしたち北海道教区は、群れの先頭に立つ新しい羊飼いである笹森田鶴主教さまを戴きました。み国への旅路を一緒に歩きますことは誠に心慶の至りであり、心より歓迎を申し上げるものであります。そのような中で、いち早く五月二日(復活節第六主日)に、ご夫君の沼原健二さんと共にご巡回をいただきました。初めてお出でになられた日高路は如何でしたでしょうか? 礼拝には札幌聖ミカエル教会の横山光紀・弥生夫妻と暫くぶりの熊谷泰彦・妙子夫妻も出席され、記念写真と

相成りました。

▽帯広聖公会  
一日は聖餐式と教会委員

四日は長年当教会の会計を担当された高橋献一さんの逝去記念式・納骨式。高校時代に「十勝の四番」といわれた野球青年だったとは意外でした。

八日は聖餐式と婦人会。  
一四日は教区礼拝にリモートで参加。  
一五日は聖餐式。

二二日は聖餐式と墓地礼拝。  
二八日は牧師館周辺の草刈りの予定でしたが、雨天中止。  
二九日はみ言葉の礼拝。  
きたる八月一四日、マリア・グレイス笹森新主教の巡回を皆で楽しみにしています。

▽稚内聖公会

柔らかな新緑が潮風にそよぐ五月二二日、本原さんと木村司祭の二名で聖餐式をおさげしました。換気のための風が心地よく感じました。  
祭壇天井の照明器具が点かなくなり、蛍光管を交換しても配線を点検しても点かず、

故障であると判断し修理を検討していた所、本原さんが電器屋への連絡や工事業者の出入りを見届ける等ご奉仕してください大変助かりました。子育て中のお孫さん宅がコロナ罹患で大変だったそうです。孫を思う祖母の温かい心にいつも感動しています。

▽札幌キリスト教会

五月八日、キッズデイの礼拝で祝福を受けた子ども達は午後、教会玄関前のプラントに花苗を植えました。同日、GFSの例会が行われ母の日にちなんでアレンジメントフラワー作りをしました。

一四日(土)三年ぶりに当教会を会場に教区礼拝が行われました。祝会やミニバザーはありませんでしたが、全道より一二〇名以上の方々が集い、笹森新主教による司式・説教で聖餐式が捧げられました。

東京教区より沼原健二さんと、小貫真基さんが転入、教会の家族にお迎えしました。五月末、八日間にわたり「笹の墓標記念館再生巡回展」が

当教会を会場に開かれ、多くの来場者を得ました。

▽札幌聖ミカエル教会

コロナウイルスとの付き合い方が何となく分かってきたので、徐々に教会活動を正常に戻す努力をしています。一五日は二年ぶりに婦人会の例会を二二名が出席して行い、交わりの再開に感謝。

二九日、日曜学校は田植えに出かけました。五月は一日にパウロ 三澤康二司祭

二三日にはグレイス吉井頼子さんを天国にお送りする。三澤司祭は六四年に及ぶ教役者生活、当教会の草創期から篤い信仰をもって支えてくださる。吉井頼子さんは教区婦人会長をされるなど、他教会との交わりも深い、婦人会の中心的なメンバーの一人でした。病床で最後まで祈り続ける姿を忘れません。魂の光明と平安を祈るとともに、ご家族に慰めがありますように。

▽新札幌聖ニコラス教会

庭のライラックが香り始めました。二回目のオルガニスト会ではリードオルガンの使い方からそれぞれに普段思っ

ていることを分かち合って礼拝音楽について思いを深めました。復活節第五主日は一日に逝去された三澤司祭のことを偲び、感謝と魂の平安のため共に祈りを捧げました。毎週金曜日にはウクライナ・ロシアを含め世界の平和のため夕の祈りを近隣の方と共に捧げております。

▽聖マーガレット教会

聖マーガレット教会には、多種多様な色とりどりの花が、四季折々に咲く小さな庭があります。そんな教会に集う私たちも、互いの多様性を尊重し、祈りと賜物を分かち合える教会であり続けたいと願っております。

その庭に隣接している駐車場にて、五月二九日主日礼拝後、六月一日に転任される、池田司祭とご家族との送別ジンギスカンパーティーを行いました。一七名が参加し、久しぶりに愛餐会を楽しみました。

▽苫小牧聖ルカ教会

春の息吹が感じられ、少しずつ景色も緑になってきました。教区礼拝には数人が出

席、行けなかった人は教会でZoom視聴でき、便利な時代になったものです。八日は糸田正博信徒奉事者司式によるみことばの礼拝。一五日はマルコ古川洋さんの逝去記念礼拝と埋葬式が執り行われました。ご家族に慰めがありますように祈りいたします。

二九日、新主教になられたマリヤ・グレイス笹森田鶴師の

初巡回、幼稚園の先生たちも礼拝に参加され、喜びに溢れました。今後、教区再編等を抱える新主教のお働きを考えると、ご健康であられることを祈るばかりです。また幼稚園では聖歌隊スマイルの結成礼拝が六月三日に行われます。

▽函館聖ヨハネ教会

五月一日、クレア黒田結以さん、上平更司祭より受洗。おめでとう。この春、入学・進級した五人の子ども達を前に拍手と共にささやかなお祝いをする。一〇代のフレッシュユな二人が揃って聖書朗読をし、新しい風が吹き始める。四日、昨年召された山本芳子、佐々木勢津子両姉を偲びながら

ら埋葬式を執り行う。一四日、笹森新主教による司式・説教の教区礼拝に六名参加、感動の様子を聞く。コロナ下の今年にはボランティアを置かず、オープンチャット始める。声を上げて聖歌を歌える日の一日も早いことを祈りつつ、今日も声を潜めて歌う。

▽平取聖公会

五月二二日に笹森新主教・管理牧師の初めての巡回がありました。当日の福音書にそった分かりやすい説教でした。保育園の職員も大勢出席しました。礼拝後に茶話会を持ち、その後バチラー保育園の新園舎建設地を視察されました。

バチラー宣教師の一八八九年刊行の『アイヌ英日三対訳辞書』は四版まで刊行されましたが、その三版の編集に、後に伝道師となるシアンレク江賀寅三師が一〇カ月バチラー宅に住んで協力した事を、『戦うコタンの勇者』(一九六四年刊)で知ることができました。ネイティブスピーカーの編集が入っていることはその価値を高めること

と思います。

▽網走聖ペテロ教会

五月、コロナ禍、主日礼拝聖歌は、入堂と退堂時の二曲を全節歌っています。小さな群れですが、毎主日礼拝が守られ、ザカリア会・ペテロの会・勉強会が継続でき、感謝です。第三週、みことばの礼拝・証は、飯野司祭夫人まゆみさんが担当。三月に逝去されたお父様の思い出を語られ、エフェソ六章で締め括られました。

昨年墓地に記念植樹したクロフネツツジが、みことな美しい花を咲かせました。駐車場片隅のコスモスも発芽しました。飯野司祭の第IV詩集が刊行されています。

▽有珠聖公会

五月二二日、聖餐式。参道には、名残りの千鳥桜が彩りを添えて会衆を迎えました。礼拝後のお茶の時間、今年度の諸計画についての話題で時を過ごしました。秋のバザー、冬のクリスマスコンサート、いずれも、コロナの影響で二年間お休みしましたが、今年は何とか実現したいもので

す。土曜日のバチラー夫妻記念室の開館の働きも順調に行われていきます。

▽留萌キリスト教会

教区の日を祝う主日、五月一日は笹森主教様の巡回日。主教と留萌の信徒が初めて顔を合わせて挨拶を交わし、み言葉と聖餐による聖なる養いを分かち合いました。礼拝後は婦人会提供によるお弁当を共に囲みながら、交わりのひと時を和やかに過ごしました。春の新緑の大地に心打たれ感激の涙が出たとの主教の言葉に、信徒一同も感動し笹森主教への好感がぐっと増しました。本当によろこそ北海道へ。この大地に逞しく根を張って、共に福音宣教の業へと邁進してまいります。

▽室蘭聖マタイ教会

桜開花と共に路地の花々も咲き始め、爽やかな季節がやってきました。

八日、松井司祭来会、聖餐にあずかり、礼拝後の聖書輪読会後、委員会。外壁の修復修繕についてなど話し合う。

松井司祭より飯野司祭の四

行詩集を頂く。感謝して拝読。飯野司祭様の日常生活が垣間見え、心の優しさ、温もりを感じた詩集でした。

二二日、札幌より大町司祭来会、聖餐にあずかりました。新型コロナウイルスの一日も早い収束と世界の平和を祈ります。

▽今金インマヌエル教会

五月の主教様の巡回が六月に延期される。無事回復され教区礼拝も終えられ安堵しました。来月お待ちしております。五月は八日、二二日、礼拝が守られる。一三日、歴史的建造物保存に向けての調査。京都文化庁と今金町の職員の方が来られる。天沼彰範兄、久美子姉、山崎三三子姉が忙しい中立ち合って下さる。修理等の方向性のために

も早目の回答が待たれます。二二日、マリア平野キミ姉が逝去、九七歳のご生涯でした。幼い娘を連れての礼拝に優しく声をかけてくださった事が思い出されます。

▽紋別聖マリヤ教会

紋別では珍しく五月の連休で花見ができるほどの桜が咲

いて、とても過ごしやすいくお天気でした。八日、越山司祭による聖餐式。二九日は久しぶりの飯野司祭による聖餐式でした。十人十色の私たちが一人一人が、神様の元で一つになることの素晴らしさや大切さを改めて知る良い機会を与えられ感謝でした。コロナ禍で行動制限が少なからず残る幼稚園ですが、四月に入園した園児たちも少しずつ団体生活に慣れ、六月に行われる運動会に向けて練習が始まっています。主に感謝。

▽北見聖ヤコブ教会

すっかり春らしくなり、草刈りが必要となつて来ました。司祭は一三日の春の教役者会、一四日の教区礼拝に参加、チャンネル上では笹森主教様の隣でシボリウムを奉持させていただきました。

一五日の聖餐式に新しい方が来会、「求道者、洗礼堅信志願者、礼拝者が増し加えられますように」との日々の祈りの大切さを覚えました。

二九日、司祭は紋別聖マリヤ教会でご奉仕をさせていた

だきました。

二ヶ月に一度のダスキン交換でのお交わりも感謝です。

▽深川聖三一教会

五月、水田に水がはいると急に冷たい空気になる不思議な気候の深川です。保育園、光の子の礼拝再開。新型コロナウイルス対応にとめる職員に教会から感謝の慰労す。一日、委員会、教会報送付作業。一日、道北分区牧師会、広谷司祭の最後の出席となる。感謝。一四日の教区礼拝には事情により参加者無し。一五日、「教区の日」の礼拝を覚える主日。教区発祥の頃の信徒の子孫が現在でも大活躍しておられる深川です。これが聖公会の特色です。一七日、保育園職員会議、岸本保育士による散歩時の注意の指導が研修内容でした。

